

レビューと音源を活用した演奏楽曲選択支援システムの構築

今枝 拓己

近年、音楽の定額配信サービスが始まるなど、音楽をより手軽に楽しむことができるようになった。しかし莫大な音楽の中から、個人の好みに合った音楽を探し選ぶことは非常に難しい。このような現状に対して音楽選択を支援する研究がこれまでもなされてきた。これにより音楽を選ぶ意思決定において有用な要素は、実際に音楽を聴くこととクチコミを見聞きすることであることが明らかになっている。しかしこれらの結果は聴くための楽曲選択を対象としたものであり、演奏のための楽曲選択を対象とした場合にも成立するのかは明らかになっていない。そこで本研究では、演奏を目的とした楽曲の選択を支援するシステムを構築し、演奏楽曲選択において有用な要素を明らかにすることを目的とする。

本研究で開発した演奏楽曲選択支援システム「tutti」は楽曲データと演奏音源の自動収集、演奏音源動画とレビューの投稿、これら3つの要素の検索と閲覧を行うことができる。自動収集は、楽曲データを楽譜通販サイト「パナムジカ」から、演奏音源動画を「YouTube」から行った。収集の結果、楽曲データは21,160件とその楽曲データに対応した演奏音源動画を9,160件収集することができた。またレビューや収集に失敗した演奏音源動画は利用者によって投稿・修正ができる。さらに検索は楽曲データを対象に行い、楽曲ごとに楽曲データと演奏音源動画、レビューをまとめて閲覧できる。

演奏楽曲選択における「tutti」の有用性と楽曲データと演奏音源動画、レビューの3つの要素の影響を明らかにするため実験を行った。実験参加者の大学生23名に、20曲の楽曲の中から演奏会のアンコール曲を選択するタスクを行ってもらった。さらにこのタスクと並行して、「tutti」および楽曲ごとに記載されている楽曲データ・演奏音源動画・レビューの有用度を評価してもらった。

実験の結果、「tutti」は演奏楽曲選択において、支援システムとして有用であることが評価された。また楽曲データ・演奏音源動画・レビューの中では演奏音源動画が最も有用度が高いことが有意に示された。さらに3つの要素をそれぞれ分析した結果、楽曲データでは情報の多さが、演奏音源動画では動画内に演奏が過不足無く収録されているか、レビューでは具体性の高さや文章量が有用度を高める要因であることがわかった。

本研究では、楽曲データと演奏音源動画、レビューの収集・検索・提供を行うシステムである「tutti」を実装した。このシステムを用いた評価実験の結果、「tutti」の有用性と演奏音源動画の影響が大きいことが示された。今後の課題は検索機能の改良による新しい楽曲選択支援システムの開発、楽曲数を増やしての楽曲選択実験の実施である。

(指導教員 松村敦)